

問1 人工歯の脱離の原因はどれか。

- a 義歯の咬合の不調和
- b リリーフの不足
- c 義歯の不適合
- d 義歯床の厚さ不足

問2 義歯床の修理に関して正しいのはどれか。

- a 破折義歯を手指で固定しながら修理する。
- b オーバーデンチャーは修理できない。
- c 再度の破折防止のため補強線を埋入する場合がある。
- d 破折部位のレジン厚さは破折前の2倍以上にしなければならない。

問3 オーバーデンチャーが通常の義歯と比較して破折しやすい理由はどれか。

- a レジン床内の気泡が多くなりやすい。
- b 残存歯部分に応力が集中しやすい。
- c 顎堤吸収により早期に適合不良になりやすい。
- d 人工歯と床の結合不備が生じやすい。

問4 破折義歯の取り扱い時にグローブを装着する意義はどれか。

- a 義歯修理時に使用する接着剤が手指に付着しないようにするため。
- b 破折義歯の表面性状を鋭敏に感じられるようにするため。
- c 破折部位で手指を傷つけないようにするため。
- d 破折義歯による自身への汚染や感染を防ぐため。

問5 リラインの目的はどれか。

- a 審美生の向上
- b 人工歯の修復
- c 破折の修復
- d 適合の回復

問6 リラインが必要とされるのはどれか。

- a 義歯床の不適合
- b 人工歯の咬耗
- c 咬合高径の低下
- d 床翼の豊隆の不足

問7 リベースについて正しいのはどれか。

- a 義歯の粘膜面のみ新しい床用材料と置き換える。
- b リラインと比べて作業が容易である。
- c 人工歯以外の義歯床をすべて新しくする。
- d 直接法で行う。

問8 リラインでフラスク埋没しない場合に用いる器具はどれか。

- a 咬合器
- b リライニングジグ
- c フェイスボウ
- d テンチの歯型

問9 リベースで交換する部位はどれか。

- a 人工歯
- b 義歯床粘膜面
- c 義歯床研磨面
- d 義歯床全体

問10 コーンステレスコープ義歯のコーン角として理想的な角度はどれか。

- a  $0^{\circ}$
- b  $6^{\circ}$
- c  $12^{\circ}$
- d  $18^{\circ}$

問 11 磁性アタッチメントの利点はどれか。

- a 支台歯の歯冠歯根比を改善できる。
- b 側方への抵抗力が大きい。
- c MRI 診断に影響がない。
- d 密着度が維持力に影響しない。

問 12 オーバーデンチャーの目的はどれか。

- a 歯髄の保護
- b 義歯破折の防止
- c 歯根膜感覚の保持
- d 支台歯の自浄性向上

問 13 オーバーデンチャーの利点はどれか。

- a 破損しにくい。
- b 歯冠歯根比を改善できる。
- c 自浄性に優れる。
- d 歯周疾患になりにくい。

問 14 金属床義歯の特徴はどれか。

- a 異物感が大きい。
- b 修理・リベースが簡単である。
- c 製作に特殊な装置を必要としない。
- d 強靱でたわみが少ない。

問 15 レジン床と比較した金属床の特徴はどれか。

- a 異物感が大きい。
- b 設計の自由度が小さい。
- c 義歯床の破折が多い。
- d 熱伝導性が良い。

問 16 金属床義歯のフレームワークに使用するのはいずれか。

- a JIS 第 1 種銀合金
- b タイプ I 金合金
- c 白金合金
- d 12%金銀パラジウム合金

問 17 メタルクラスプと比較したレジンクラスプの性質はいずれか。

- a 表面粗れが生じにくい。
- b 歯周疾患のリスクが低い。
- c 審美性が低い。
- d 専用の研磨剤が必要である。

問 18 ノンメタルクラスプデンチャーの利点はいずれか。

- a 耐久性に優れる。
- b 装着感がよい。
- c 修理が容易である。
- d 維持力を調整しやすい。

問 19 近年開発が進められており臨床応用間近の義歯の特徴として正しいのはどれか。

- a 義歯床が伸縮自在でどんな顎堤にも適用可能「ハイパーゴムデンチャー」。
- b 人工歯を自由に付け替え可能「アタッチメントティースデンチャー」。
- c 義歯の面倒な管理不要。清潔のために 1 日使い切り「1 Day デンチャー」。
- d CAD/CAM システムを応用した「CAD/CAM デンチャー」。

問 20 破折義歯のケアについて正しい記述はどれか。

- a 再破折を防ぐため機械的清掃をしてはいけない。
- b 機械的清掃時は歯磨剤の使用が推奨される。
- c 化学的清掃は毎日の使用が推奨される。
- d 化学的清掃は歯科医院でのみ可能である。

問 21 無歯顎患者の破折した全部床義歯の写真を示す。破折理由として最も可能性が高いのはどれか。

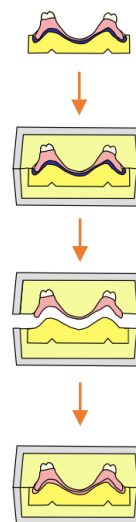
- a 義歯製作時に義歯床内に多数の気泡が混入した。
- b 義歯使用中に残根部に応力が集中した。
- c 義歯使用中に転倒し顔面を強打した。
- d 義歯清掃時に煮沸消毒を行った。



問 22 フラスクを用いたリラインの技工操作を図に示す。

図の説明で正しいのはどれか。

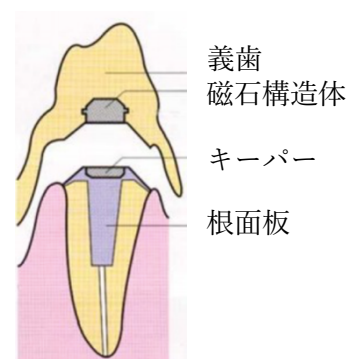
- a 「直接法」と呼ばれる手法である。
- b 埋没には主にリン酸塩系埋没材が使用される。
- c 印象材の除去を行う必要がある。
- d リライン材填入直前に義歯床粘膜面にワセリンを塗布する。



問 23 あるオーバードンチャーの断面図を図に示す。

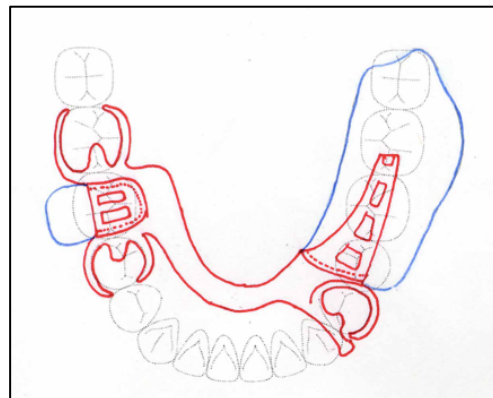
このオーバードンチャーの特徴として正しいのはどれか。

- a 一般的に失活歯に適応される。
- b 機械的嵌合力により義歯を安定させる。
- c キーパー付根面板は既製品である。
- d 義歯人工歯には陶歯を用いる必要がある。



問 24 金属床義歯の設計を図に示す。説明として正しいのはどれか。

- a 上顎の義歯である。
- b 「全面金属型」と呼ばれるフレームワーク構造をしている。
- c ワイヤークラaspを使用することで審美性に配慮している。
- d フィニッシュラインは研磨面と粘膜面とに付与する。



問 25 この義歯についての説明で最も適しているのはどれか。

- a CAD/CAM の手法を用いて製作されている。
- b 人工歯基底面に保持孔が付与されている。
- c 金属アレルギー患者に配慮して製作された義歯である。
- d 今後開発が期待されており臨床応用はされていない。

